児童・生徒の現状・課題

学習意欲が高く、話し合い活動では活発な意見交換がなされるが、そこから深い学びにつなげ、自ら学びを進める意識を高めることが課題である。

学び続ける力を育むための重点目標

〇生徒自身が、自ら考え、学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。

※肯定的回答の割合（%）

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	88.0	90.0	
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	71.2	75.0	

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	78.0	85.0	
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	81.0	85.0	

具体的な手だて①

単元の導入時に学習計画を明確にし、生徒に見通しをもたせた上で授業を進めていく。授業中に理解度を確認する時間を設ける。

具体的な手だて②

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

共に学習する仲間、学習ツール、情報ソースなど、目的に沿って、自ら選択できる場面をどの教科においても単元ごとに時間設定を行う。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・教員どうしの授業観察を活発にし、授業改善のための意見交換を日常的に行う。

・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

総括（7月）

生徒自身の学習への取り組みに対する自己評価は高い傾向にある。しかし、全国学力調査の結果は自己評価の数値とやや解離しているように思われる。指示されたことや与えられた課題には真面目に取り組むが、そこからの深い学びが不足し、「理解したつもり」の状態で学習を終えていることが原因と考えられる。今後は日常の授業で目標を明確にし、目標に対する自らの達成度を認知する場面を設定することや深い学びを通じて知識同士をつなげることが課題となる。それらの必要な手立てを授業者が効果的に実践することが求められる。

総括（1月）